

山岸 佳太 (茨城/107期)

今年はまだ決勝での連がらみはないものの、16走で8勝を挙げていて勝率はジャスト5割。持ち味である自力攻撃の破壊力には並々ならぬものがあり、格上相手の一発もありそうだ。



久米 良 (徳島/96期)

こここのところ差し脚好調。2月松戸、3月小田原はいずれも準V、同月玉野記念in広島では2⑤②⑥着と2連対を果たしている。当所は昨年2月にS級初Vを飾ったゲンのいいバンクでもある。



小川 賢人 (福岡/103期)

調子を落としていた時もあったが、ここに来て上向いてきた。2月奈良記念では2①着で準決に進出すると、同月別府、3月小倉はともに予選で勝ち星をゲット。同格戦はアタマで狙える。



第3回ガールズ フレッシュクイーン

尾方真生が激戦を制する

出場予定選手詳細 ※2021年4月8日現在

選手名	所属	身長	年齢	直近12場所成績	総合評価
西島 叶子	熊本市	160cm	26	85 [12] ⑨⑪⑥①	⑨⑪⑥①
尾方 真生	福岡県	161cm	21	93 [3] ②④①①	②④①①
吉岡 詩織	広島県	163cm	26	81 [11] ⑧⑧①①	⑧⑧①①
下条 未悠	富山県	169cm	20	75 [13] ⑥②①②	⑥②①②
増田 夕華	岐阜県	157cm	20	85 [11] ④⑦②①	④⑦②①
永禮 美瑠	愛知県	151cm	21	83 [14] ④⑧④①	④⑧④①
高木 佑真	神奈川県	165cm	22	79 [12] ⑩⑥②②	⑩⑥②②

次代を担うスター選手の登竜門として、デビュー2年未満のガールズケイリン選手7名によって行われる大会。選考期間の関係で、今年に入って本領を發揮し始めた116期の何人かの顔が見られないのは残念だが、ガールズ新時代到来を感じさせるメンバーがそろった。全員が自力タイプという激戦だが、本命は尾方真生が務める。デビューから1年足らずで優勝回数10回の大台に乗った戦績はここでは断然の存在だ。当初はレースを見過ぎて失敗するケースも散見したが、トップ級と渡り合って決勝進出も果たしたガールズグランプリトライアルを経て一段と成長を遂げた。仕掛けにより積極性を増して力を出し切れるようになれば怖いものはない。2月以降は全く連を外していないパフォーマンスだ。陸上競技で鍛えたバネとパワーを生かした自力攻撃は破壊力満点。何よりも踏み出してからの加速力が強烈で、姉弟子の女王・児玉碧にも



尾方真生



吉岡詩織

見劣りしなくなったカマシ、まくりで敵を圧倒してしまおう。先輩期の意地を見せたい吉岡詩織にも注目が集まる。デビューから先行勝負を貫くレーサー。決勝を外す場所があるなど最近は一瞬の気味だが、底力は評価したい。尾方との対戦は過去に2回あるが、ともに吉岡が先手を握って好勝負を演じている。高木佑真も昨年11月松戸で初優勝を逃げ切りで達成するなど波に乗る注目の若手だ。経験を積んで思うようなレースができるようになってきただけにツボにハマれば怖い存在だ。だが、尾方の脅かすのは同期のライバルになる可能性も高い。西島叶子、増田夕華、永禮美瑠に、繰り上がりで出場が決まった下条未悠までそろってV実績がある。特に西島、増田は自分の目指すレースがつかめてきた上に、周りも見えるようになって成績がうなぎ上りだ。増田は地脚タイプ、西島はダッシュ型とそれぞれ脚質は異なるが、脚を使っても前々に攻め切る競走ができれば一発十分。